



第97期 中間報告書

2008年4月1日～2008年9月30日

参天製薬株式会社

証券コード 4536



コーポレートプロフィール

参天製薬は、眼科とりウマチ／骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目とからだの健康維持・増進に貢献しています。売上高の約80%を占める医療用眼科薬では、あらゆる眼科疾患に対する優れた医薬品の創製と医療現場のニーズに即した情報提供に取り組み、国内No.1の地位を獲得しています。すでに日米欧の3極で臨床開発・販売体制を構築し、卓越した研究開発力に根ざした独自性ある製品を世界に供給する「世界で存在意義のある企業」となることを目標にしています。

参天製薬は、社名の由来でもある「天機に参与する」※という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

※ 中国の古典『四書五経』を原典としており、聖人が、「天」すなわち万物の秩序・原理と、「地」すなわち人間社会の調和を助けることを意味しています。

目次

株主の皆さまへ	1
財務ハイライト	3
第2四半期連結業績レポート	4
主要な医薬品開発状況一覧表	8
四半期連結財務諸表	9
取締役、監査役および執行役員	11
会社概要	12
株式の状況	13
株主メモ	14

見直しに関する注意事項

この中間報告書は、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見直しを含んでいます。この見直しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向などさまざまな要素により、これら見直しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに、第97期の中間報告書をお届けにするにあたり、ごあいさつ申し上げます。



代表取締役会長

森田隆和

代表取締役社長 兼 CEO

黒川 明

当第2四半期までの国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響はありましたが、角膜疾患治療剤、緑内障治療剤、ならびに抗アレルギー点眼剤などの伸長により、前年同期と比べ若干拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、欧米・アジアともに総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、目の疲れ用、コンタクト用ならびにアレルギー用目薬などが伸長し前年同期と比べわずかに拡大しました。

このような状況下、国内では医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動に注力したことや、欧米を中心とした海外事業が堅調に推移したこともあり、売上高は前年同期と比べ0.5%増加し、522億1千7百万円となりました。

また、当社は、本年5月に米国のマキュサイト社とシロリムス製剤（網膜疾患領域における治療剤）に関する日本およびアジア諸国での眼疾患を対象にした開発および販売実施権の契約締結を行いました。契約締結に伴う一時金として約53億円を計上したことにより、営業利益は前年同期と比べ47.2%減少の56億3千6百万円、経常利益は前年同期と比べ45.2%減少の60億1千4百万円となりました。四半期純利益は前年同期と比べ46.2%減少の37億2千4百万円となりました。

研究開発におきましては、緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）が、現在、ドイツ、デンマークで上市し、日本でも2008年10月に製造販売承認を得ました。

中間配当金につきましては、1株あたり40円とさせていただきます。

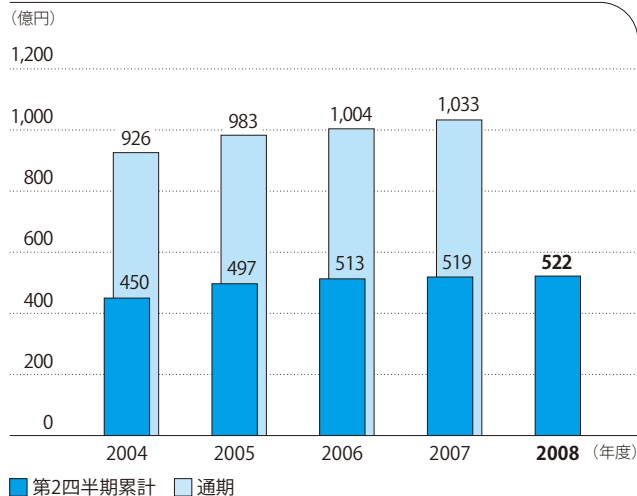
また、当社は、2006年7月に、「世界の参天に向けた新薬候補の準備と、強みが発揮できる地域での成長」を基本方針とした5カ年の中期経営計画（2006－2010年度）を発表しました。これは2006年度を起点とした10年後の2015年度に「世界の参天」を実現することを長期構想とし、2006年度から2010年度までをその第一ステップと位置づけるものです。

なお、2009年3月期は、策定当初に掲げた戦略・施策は概ね予定通り進捗しています。

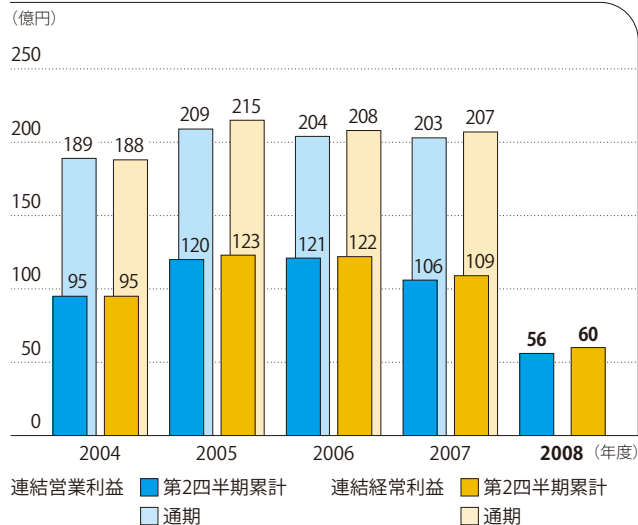
中期経営計画ならびに長期構想の実現を通して、企業価値を持続的に拡大し、株主の皆さまの信頼に応えていく所存です。

経営陣を代表して、皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

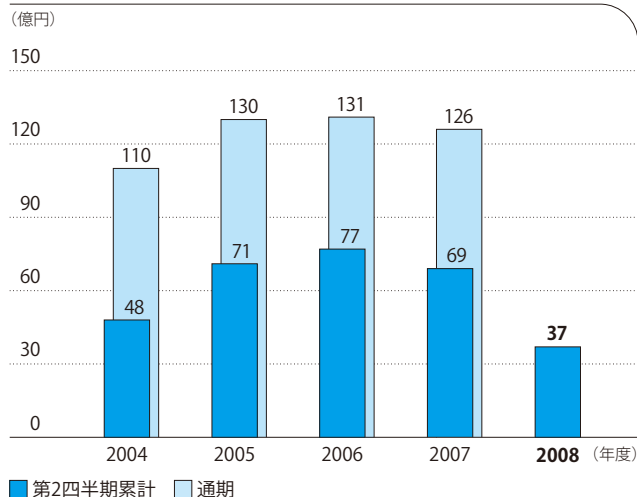
連結売上高



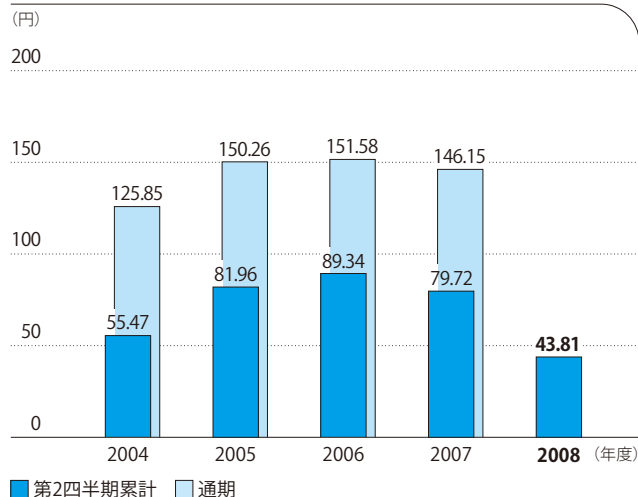
連結営業利益／連結経常利益



連結当期純利益



連結1株当たり当期純利益



当第2四半期までの概況

業績の状況(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

国内医療用眼科薬市場は薬価改定の影響はありましたが、角膜疾患治療剤、緑内障治療剤ならびに抗アレルギー一点眼剤などの伸長により、前年同期と比べ若干拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は欧米・アジアともに総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は目の疲れ用、コンタクト用ならびに

アレルギー用目薬などが伸長し、前年同期と比べわずかに拡大しました。

このような状況下、当第2四半期までの業績は次のとおりとなりました。

(単位:百万円)

	当第2四半期累計	前年同期	前年同期増減率
売上高	52,217	51,942	0.5%
営業利益	5,636	10,668	△ 47.2%
経常利益	6,014	10,971	△ 45.2%
四半期純利益	3,724	6,918	△ 46.2%

売上の状況(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

販売部門別の売上高は次のとおりとなりました。

(単位:百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医療用医薬品	41,711	1.5%	6,895	1.2%	48,606	1.5%
うち眼科薬	36,615	1.3%	6,854	1.7%	43,469	1.4%
うち抗リウマチ薬	4,964	3.0%	21	△ 67.1%	4,986	2.1%
うちその他医薬品	131	6.5%	19	121.0%	151	14.2%
一般用医薬品	2,716	△ 2.8%	5	△ 47.9%	2,722	△ 2.9%
医療機器	227	4.1%	—	—	227	△ 2.1%
その他	242	△ 17.9%	417	△ 42.2%	660	△ 35.2%
合計	44,898	1.2%	7,318	△ 3.2%	52,217	0.5%

医療用医薬品

当第2四半期までの医療用医薬品の売上高は、前年同期と比べ1.5%増加し486億6百万円となりました。

▶眼科薬<国内>

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました。薬価改定や競合の影響もあり、抗緑内障治療剤の「レスキュラ点眼液」や

「チモプトール点眼液」などが減少しましたが、角膜疾患治療剤の「ヒアレイン点眼液」は、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示しました。その結果、国内医療用眼科薬の売上高は前年同期と比べ1.3%増加の366億1千5百万円となりました。



▶ 眼科薬＜海外＞

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ1.7%増加の68億5千4百万円となりました。欧州では為替の影響や医薬情報提供などの普及促進活動に注力し、北欧・東欧・ロシア・ドイツなどで伸長しました。米国向けでは競合の影響もあり売上高は減少しました。アジア向けでは、中国で供給タイミング、為替および競合などの影響があったため、売上高は減少しました。

▶ 抗リウマチ薬

「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠2mg」は、市場が前年同期と比べ伸長したことと、関節リウマチ治療ガイドラインで、強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、抗リウマチ薬の売上高は前年同期と比べ2.1%増加の49億8千6百万円となりました。

一般用医薬品

一般用医薬品部門の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬を中心に引き続き販売促進に注力しましたが、かすみ・アレル

利益の状況(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

5月にマキュサイト社とシロリムス製剤(網膜疾患領域、開発コードDE-109)に関する日本およびアジア諸国での眼疾患を対象にした開発および販売実施権の契約締結を行い、それに伴う一時金として50百万ドルを計上したことなどにより、販売費及び一般管理費は前年同期と比べ22.6%増加の281億5千7百万円と

ギー・コンタクト用目薬などが減少し、前年同期と比べ2.9%減少の27億2千2百万円となりました。



医療機器

国内の白内障手術件数は若干増加しましたが、競争の激化に伴い既存の眼内レンズの売上高は減少しました。一方、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズの「エタニティー」の販売を開始しました。エタニティーの発売直後でその効果がまだ現れていないこともあり、売上高は前年同期と比べ2.1%減少の2億2千7百万円となりました。

その他

米国向け耳科用合成抗菌剤の受託製造がなくなり、売上高は前年同期と比べ35.2%減少の6億6千万円となりました。

なりました。その結果、営業利益は前年同期と比べ47.2%減少の56億3千6百万円となりました。経常利益は前年同期と比べ45.2%減少の60億1千4百万円となりました。四半期純利益は前年同期と比べ46.2%減少の37億2千4百万円となりました。

研究開発の状況

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体 DE-085 (一般名:タフルプロスト) は、欧州ではドイツ、デンマークにおいて上市、日本では2008年10月に製造販売承認が得られました。アジアにおいては韓国で販売承認を申請中であり、中国では臨床第Ⅲ相試験を実施中です。一方、米国においては今後の事業化の検討を踏まえたうえ、申請の是非を決定します。アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤の DE-092 (一般名:オルメサルタン) は、日本および米国での臨床第Ⅱ相試験の結果、用量依存性が確認できなかったため臨床試験を一時中断していましたが、変更した製剤での臨床第Ⅱ相パイロット試験を実施中です。緑内障および高眼圧症を適応症とする ROCK 阻害剤の DE-104 (一般名:未定) は、日本と米国で臨床第Ⅱ相試験を実施中です。

角結膜疾患 (ドライアイを含む) 領域において、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤のうち、DE-089 (一般名:ジクアホソルナトリウム) は、日本での製造販売承認申請を2008年5月におこないました。また、DE-101 (一般名:リボグリタゾン) は日本と

米国において臨床第Ⅱ相試験を実施中です。遷延性角膜上皮欠損を適応症とする DE-105 (一般名:未定) は、米国において臨床第Ⅰ相試験を実施中です。アレルギー性結膜炎を適応症とするホスホジエステラーゼ4阻害剤の DE-103 (一般名:未定) は、日本で臨床第Ⅱ相試験を実施中です。外眼部感染症を適応症とする DE-108 (一般名:レボフロキサシン (1.5%)) は、日本において臨床第Ⅰ相試験を終了し、臨床第Ⅲ相試験の準備中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とする DE-102 (一般名:未定) は、患者さんを対象とした忍容性および有効性試験 (臨床第Ⅰ相/第Ⅱ相試験) を日本で実施中です。

滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫を適応症とする DE-109 (一般名:シロリムス) の、日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権を、2008年5月にマキユサイト社から取得しました。

また、当社が株式会社 Argenes に国内開発権を許諾している、関節リウマチを適応症とする DE-098 (一般名:未定) は、患者さんを対象とした忍容性および有効性検証試験 (臨床第Ⅰ相/第Ⅱ相試験) を欧州と日本で実施中です。

通期の見通し

当第2四半期の業績は概ね予定通り推移しており、2008年8月4日に公表した通期業績予想は修正していません。

主要な医薬品開発状況一覧表

(2008年11月現在)

一般名	開発コード	効能・効果	地域	フェーズ			申請承認発売	特徴
				I	II	III		
緑内障領域								
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	日本 欧州 米国 アジア*	2008年10月 2008年6月			プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年10月、国内での製造販売承認取得。欧州においては、2008年4月にデンマークにて欧州最初の承認を取得。その後、2008年6月ドイツにて発売。米国においては、今後事業化の検討を踏まえたうえで、申請するかどうかを判断する。韓国にて2007年11月販売承認申請。中国にてフェーズ3実施中。 *日本を除く	
オルメサルタン	DE-092	緑内障・高眼圧症	日本 欧米	パイロット試験	2007年11月			アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤。日本および欧米でのフェーズ2において、用量依存性が確認できなかったため、臨床試験の一時中断を決定。現在変更した製剤でのフェーズ2/パイロット試験を実施中。
塩酸ロメリジン	DE-090	緑内障	日本	視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。シェリング・プラウにより片頭痛治療剤として上市済。				
未定	DE-104	緑内障・高眼圧症	米国 日本	宇部興産との共同研究で見出したROCK阻害活性を有する緑内障・高眼圧症治療剤で、既存の薬剤と異なる作用機序を持つ。線維柱帯細胞に直接作用し房水流出を促進すると考えられ、強力な眼圧下降作用が期待される。				
角結膜疾患領域								
ジクアホソル・ナトリウム	DE-089	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	日本	2008年5月			角結膜上皮から涙液構成成分や水分の分泌を促す、主にドライアイに伴う角結膜上皮障害治療剤。既存薬との併用が可能。フェーズ3比較試験で所期の目的を達成でき、製造販売承認を申請。	
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	米国 日本	主にドライアイに伴う角結膜上皮障害に対する改善効果が期待できる。現在発売および開発中の薬剤と異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかける点眼薬。第一三共が経口糖尿病治療剤として、米国で臨床試験中。				
未定	DE-103	アレルギー性結膜炎	日本	従来のアレルギー性結膜炎治療剤と異なる作用機序を持つ、ホスホジエステラーゼ4(PDE4)阻害剤。炎症性細胞の活性化に関与するPDE4を阻害することで、アレルギー性結膜炎に対し優れた改善効果を示すことが期待できる。				
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	米国	既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞進展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と、高い安全性が期待される。				
網膜疾患領域								
未定	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	日本	(フェーズ I / II a)	ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れた、ステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与で、長く安定した薬効持続性が確認できている。商業用スケールでの製造技術開発で米国オークウッド社と提携。			
シロリムス	DE-109	滲出型加齢黄斑変性糖尿病黄斑浮腫	日本	準備中 免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する結膜下注射および硝子体内注射剤。マキュサイト社が実施した滲出型加齢黄斑変性および糖尿病黄斑浮腫患者を対象とした米国でのフェーズ I 試験において、網膜の形態的改善を伴う視力改善を示す症例が認められている。日本を含むアジアでの眼科疾患を対象とした開発および販売実施権をマキュサイト社より取得。				
眼感染症領域								
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	日本	ニューキノロン系抗菌薬。耐性制御を目的とした高濃度製剤。				
レボフロキサシンプレドニゾンA	DE-094	感染による角膜炎	米国	ニューキノロン系抗菌薬のレボフロキサシンとステロイドの合剤。				
リウマチ領域								
未定	DE-098	関節リウマチ	日本 欧州	(フェーズ I / II a)	RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。実生産規模での原薬製造法工程を確立。当社がセントコア社から導入した、抗APO-1抗体の国内開発権をArgenesiに許諾。日本および欧州にて治療実施中。国内販売権および海外開発販売権は当社が保有。			

*韓国:販売申請、中国:フェーズIII

本資料には参天製薬の事業および展望に関する将来見通しが含まれていますが、事業に及ぼすリスクや不確実な事項により、現在の見通しとは異なることもあります。

フェーズ I (臨床第 I 相試験):少数の健康人志願者を対象に安全性を確認する試験

フェーズ II (臨床第 II 相試験):少数の患者さんを対象に投与量や投与方法を確認する試験

フェーズ III (臨床第 III 相試験):多数の患者さんを対象に既存薬やプラセボ(偽薬)と比較して安全性・有効性を確認する試験

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 平成20年9月30日現在	前期 平成20年3月31日現在	増減額
〔資産の部〕			
流動資産	99,085	102,754	△ 3,669
現金及び預金	30,970	35,483	△ 4,513
受取手形及び売掛金	36,727	35,614	1,113
有価証券	15,389	15,868	△ 479
たな卸資産	11,131	11,332	△ 201
その他	4,866	4,455	411
固定資産	55,311	53,548	1,763
有形固定資産	29,601	29,848	△ 247
建物及び構築物	16,023	15,160	863
土地	8,565	8,558	7
その他	5,012	6,130	△ 1,118
無形固定資産	1,720	2,233	△ 513
投資その他の資産	23,989	21,466	2,523
投資有価証券	17,137	16,949	188
その他	6,851	4,516	2,335
繰延資産	—	244	△ 244
資産合計	154,396	156,547	△ 2,151

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 平成20年9月30日現在	前期 平成20年3月31日現在	増減額
〔負債の部〕			
流動負債	23,650	26,561	△ 2,911
支払手形及び買掛金	5,151	5,633	△ 482
一年以内返済予定の 長期借入金	168	5,168	△ 5,000
未払金	10,268	7,690	2,578
未払法人税等	4,439	4,323	116
その他	3,622	3,744	△ 122
固定負債	3,162	2,867	295
長期借入金	26	110	△ 84
退職給付引当金	2,173	1,815	358
その他	963	942	21
負債合計	26,813	29,429	△ 2,616
〔純資産の部〕			
株主資本	126,813	126,398	415
資本金	6,451	6,418	33
資本剰余金	7,146	7,113	33
利益剰余金	118,144	117,786	358
自己株式	△ 4,928	△ 4,920	△ 8
評価・換算差額等	581	600	△ 19
新株予約権	188	119	69
純資産合計	127,583	127,118	465
負債純資産合計	154,396	156,547	△ 2,151

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	(ご参考) 前第2四半期累計 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	(ご参考) 増減額
売上高	52,217	51,942	275
売上原価	18,423	18,310	113
売上総利益	33,793	33,632	161
販売費及び一般管理費	28,157	22,963	5,194
営業利益	5,636	10,668	△ 5,032
営業外収益	782	590	192
営業外費用	403	287	116
経常利益	6,014	10,971	△ 4,957
特別利益	18	0	18
特別損失	39	50	△ 11
税金等調整前四半期純利益	5,994	10,921	△ 4,927
法人税、住民税及び事業税	4,379	4,114	265
法人税等調整額	△ 2,109	△ 111	△ 1,998
四半期純利益	3,724	6,918	△ 3,194

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	(ご参考) 前第2四半期累計 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	(ご参考) 増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	5,294	7,125	△ 1,831
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,114	△ 938	△ 1,176
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 8,423	△ 3,089	△ 5,334
現金及び現金同等物に係る 換算差額	192	△ 59	251
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額	△ 5,051	3,037	△ 8,088
現金及び現金同等物の 期首残高	51,669	49,841	1,828
現金及び現金同等物の 四半期末残高	46,618	52,878	△ 6,260

● キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書とは、当該会計期間における資金の流れ(キャッシュ・フロー)を、「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3つに区分し、それぞれの活動によりどれだけの資金が増加・減少したかを示したものです。

そして、これらの活動により増加・減少した資金の総額は、「現金及び現金同等物」として、表示されています。

取締役

森田 隆和
代表取締役会長

黒川 明
代表取締役社長兼CEO

三田 昌宏
常務取締役
経営全般、薬制担当

和賀 克公
取締役
社会・環境担当

村松 勲
社外取締役(医療ビジネスコンサルタント)

古谷 昇
社外取締役(経営コンサルタント)

濱本 龍彦
社外取締役(他社社外監査役)

監査役

水本 幸儀
常勤監査役

加護野 忠男
社外監査役(大学教授)

佐藤 康夫
社外監査役(他社非常勤相談役)

宮内 英樹
社外監査役(他社社外取締役)

執行役員 (取締役による兼務を除く)

西畑 利明
常務執行役員 研究開発本部長

古門 貞利
常務執行役員 医薬事業部長

岩本 憲二
執行役員 アジア事業部長

佐藤 正道
執行役員 経営企画室管掌
兼 人材戦略担当 兼 薬粧事業部管掌
(10月1日付で執行役員 企画本部長に異動)

エイドリアン・グレイブス
執行役員 サンテン・インク取締役社長

ユルキ・リリエロース
執行役員 サンテン・オイ取締役社長

森島 健司
執行役員 生産物流本部長

納塚 善宏
執行役員 計画・統制本部長
(10月1日付で執行役員 社会・環境担当に異動)

社名	参天製薬株式会社	創業	1890年
本社	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号 TEL:06-6321-7000(代表) 06-6321-7007(IR専用) FAX:06-6321-8400	設立	1925年
		資本金	6,451百万円
		工場	能登、滋賀、大阪
		研究所	奈良研究開発センター
		従業員数	2,552名(単体1,904名)

主要子会社

① サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク

事業内容:北米事業の持株会社、事業開発

出資比率:100%

設立年月:2002年1月

② サンテン・インク

事業内容:医薬品の臨床開発

出資比率:100%

設立年月:1993年3月

(注)サンテン・ホールディングス・ユーエス・インクを通じた間接出資

③ サンテン・オイ

事業内容:医薬品の臨床開発・製造・販売・受託製造

出資比率:100%

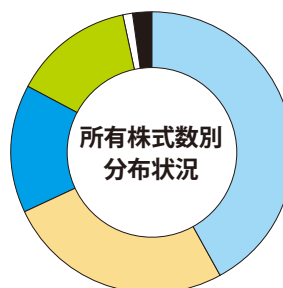
設立年月:1997年2月

④ 参天製薬(中国)有限公司

出資比率:100%

設立年月:2005年9月

発行可能株式総数	220,000,000株
発行済株式総数	86,908,203株
単元株式数	100株
株主数	11,490名



区分	株式数(千株)	構成比(%)
金融機関	36,474	42.0
外国法人等	22,712	26.1
その他の法人	13,003	14.9
個人・その他	11,904	13.7
金融商品取引業者	924	1.1
自己株式	1,891	2.2
合計	86,908	100.0

大株主の状況 (上位10社)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	11,461	13.2
三田産業株式会社	4,756	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,398	5.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,241	4.9
日本生命保険相互会社	3,043	3.5
資産管理サービス信託銀行株式会社	2,871	3.3
東京海上日動火災保険株式会社	2,668	3.1
ザシルチェスターインターナショナル インベスターズインターナショナル バリュエイクイティートラスト	2,636	3.0
第一三共株式会社	1,642	1.9
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシーリユーエスタックス エグゼンプテッドペンションファンズ	1,573	1.8

(注) 自己株式1,891千株(出資比率2.2%)を保有していますが、上記の大株主から除いています。

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL: http://www.santen.co.jp/jp/pn
証券コード	4536
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL: 0120-094-777
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ※ 株式関係のお手続き用紙のご請求は、下記の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 TEL: 大阪 0120-684-479 東京 0120-244-479 インターネットホームページ: http://www.tr.mufig.jp/daikou/
単元未満株式の買増および 買取のご請求について	1) ご所有の単元未満株式を単元株式(100株)としていただける単元未満株式買増制度を実施しています。ご希望の株主の皆さまは、上記株主名簿管理人事務取扱場所および取次所までお問い合わせください。 2) ご所有の単元未満株式を売却する買取請求につきましても、従来どおり上記株主名簿管理人事務取扱場所および取次所にて承っております。

株券電子化実施に伴うお知らせ

1. 株式に関する各種手続きについて

株券電子化後のご住所変更等の各種手続きにつきましては、株主様が口座を開設されている証券会社経由で行っていただくことになるため、株主名簿管理人の「取次所」に関する定めは、株券電子化後に削除となります。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお取扱いいたします。

2. 特別口座の口座管理機関について

株券電子化前に保管振替制度をご利用されていない株主様のご所有の株式につきましては、以下に開設される特別口座に記録されます。

特別口座に記録された株式に関するお手続き(振替請求・単元未満株式の買取請求および買増請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化後、

下記口座管理機関の連絡先にお問い合わせください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお取扱いいたします。

特別口座を開設する 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL: 0120-094-777

3. 株券電子化に係る買取請求 および買増請求のお取扱いについて

株券電子化への移行に伴い、施行日前後における単元未満株式の買取請求および買増請求につきましては、一定期間受付できないこととございますのでご注意ください。

お問い合わせ先

参天製薬株式会社

コーポレート・コミュニケーショングループ

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号

TEL: 06-6321-9957 FAX: 06-6321-8400

Email: ir@santen.co.jp URL: <http://www.santen.co.jp>



この冊子は地球環境保護のため、大豆油インキで印刷しています。